

令和6年度

松陰高等学校（通信制）評価 総括

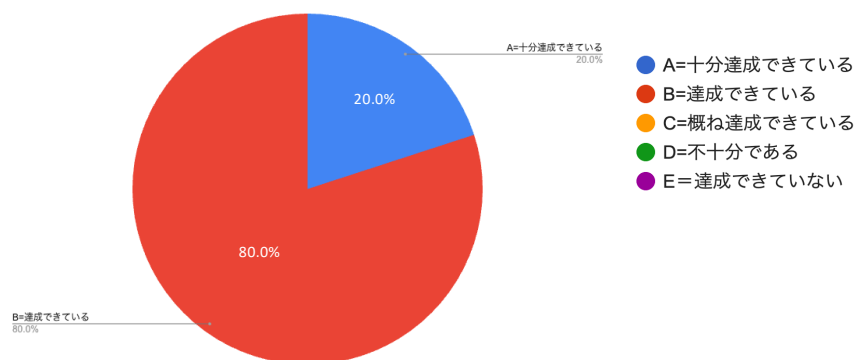
令和7年3月31日

【重点項目】 生徒一人ひとりの継続的な学習の習慣化と学力の向上

【重点目標】

- ・ スクーリング・レポート作成・テストへの個別指導の充実と教科内容の理解
- ・ 学習状況の定期的確認と生徒・保護者への連絡
- ・ 「学習の手引き」の有効な活用
- ・ 個別面談の充実と進路実現へのサポート

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 今年度同様、保護者とは密に連携し、生徒には理解し実行できる形で進める。
- 学習スクーリング・レポート・テストについては、学習進捗を徹底管理し、生徒・保護者へ連絡してスムーズな単位修得を行えた。次年度の課題として、出来るだけリアルタイムで学習進捗が生徒・保護者が閲覧・確認できるよう、ITを活用した運用を行いたいと考えており、2025年度においては試験実装を行っている。また、学力向上といった部分については弱い部分があるため、空き時間を活用して、レポート指導の中できめ細かな指導を行いたい。
- 定期的に情報共有ができています。
- 生徒の状況に応じた個別指導やスクーリングをさらに充実させていく必要があると感じており、次年度も指導方法・内容を工夫し充実させていきたい。
- 指導上、問題なく進んでいる。引き続き個別面談は随時行うべきだと考える。
- 学習進度表を定期的に送付し、生徒・保護者に連絡ができていた。

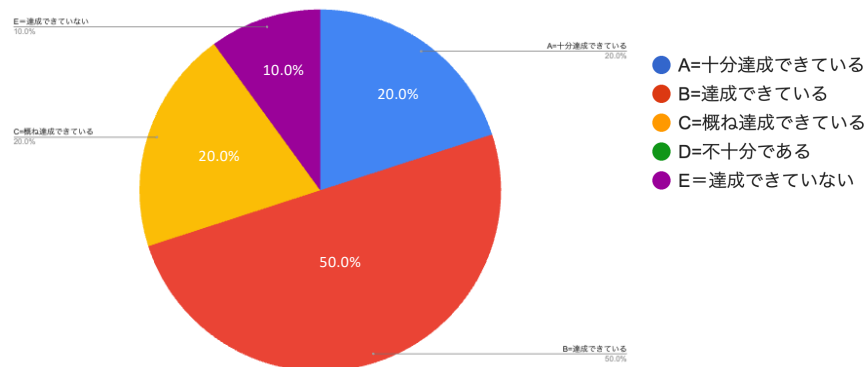
- 学習状況の確認や連絡等は定期的に行っている。個別面談も年に2回程度行っているが、進路実現へのサポート面は、生徒一人ひとりの実態に合わせた支援がまだまだできると思う。
- 生徒の状況に応じて、個別指導や個別面談を適切に実施することが出来ていると感じる。継続的な学習の習慣化を図るため、保護者との連携をより深められると良い。
- 学習進度表を定期的を送付し、生徒・保護者に連絡ができていた。

【重点項目】 望ましい職業感の育成

【重点目標】

- ・ 一人ひとりへのきめ細やかな進路指導の充実
- ・ 進路ガイダンス・個別面談の質の向上

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 三者懇談会も個別懇談もしっかりとなされていた。
- 進路面談をはじめ、校内模試を実施し、成績データを管理するなどして、生徒に随時、適切な進路指導ができていた。志望理由書や願書記入、出願、受験票出力まで対応した結果、生徒も安心して受験し、志望校への合格を決めることができた。

次年度への課題として、発達障がいのある生徒に対する進路指導など、これまで取り組みがなかった部分の準備をしていく必要があるように思った。

- 個々の状況に応じた進路指導ができています。

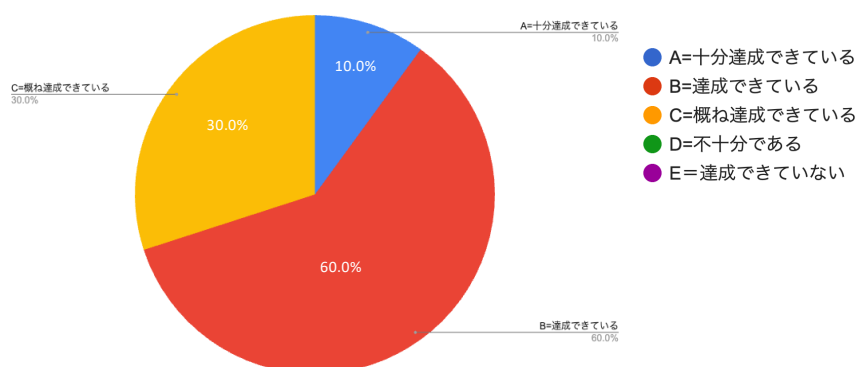
- 適学適職検査を行い、その結果をもとに個別に面談を行うことで職業観の育成を図った。次年度以降も、このような適学適職検査等を活用していきたい。
- 総合的に問題なく進められている。個別面談の質向上には改善の余地がある。
- 適性検査を実施した上で面談をおこなっていた。1.2年生も少しでも進路について考える機会を設けると良いと思う。
- 個別面談時に、進路について決めかねている生徒への継続的な声かけをしていかなければならないと思う。
- 個別面談や進路ガイダンスの実施、進路コーナーの設置等を通して、進路指導の充実を図ることができている。三者面談を適宜行い、保護者とのコミュニケーションの機会を増やすことで、より円滑な指導を行うことができると考える。

【重点項目】 基本的生活習慣と規範意識の確立（学校生活の安心と安全）

【重点目標】

- ・ 社会性と公共心の育成、規範意識の高揚
- ・ 教職員の共通理解による生徒指導体制の充実

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 毎日の朝礼時に、生徒の状況・情報交換をしっかりと出来た。これを続けていきたい。

- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 今年度は昨年度に比べ、校外学習を多く企画運営し、社会性を育成する機会を増やした。その際、時間厳守や他を気遣いながら気持ちよく団体行動を行うことができていたため、基本的生活習慣や規範意識は確立できていたのではないと思う。

次年度への課題として、より多くの生徒がそういった活動に参加することで、校舎全体が小さなコミュニティとして機能し、多様性の理解や様々な問題に対する解決能力などを養える場になればと思う。

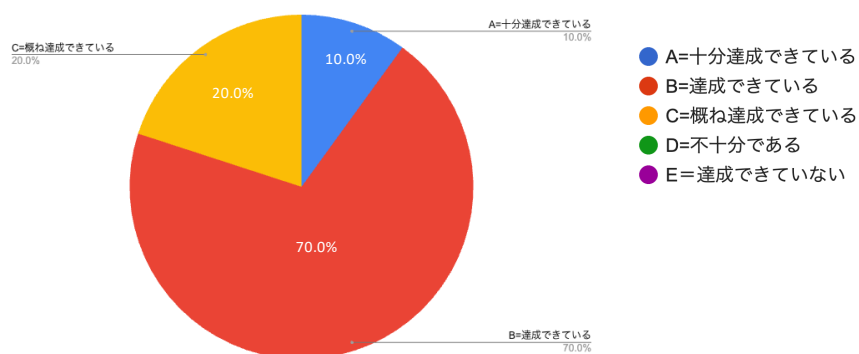
- 全体的に達成できているが、個別の指導を更に充実させる必要がある。
- 特別活動の一環で公共施設や学外で活動をすることで、社会的なマナーや公共心を育んできた。また、教職員間でこまめな情報共有をすることで指導体制の充実を図った。次年度についても継続して活動を通じての社会性、公共心の育成や教職員の生徒指導体制の充実を図っていく。
- 教職員の連携を取って指導することができた。次年度も共通理解を高めるべきである。
- 日々のスクーリングの中で場面に応じた生徒の指導ができている。教職員で生徒指導に関する研修の機会を持てれば良いと思う。
- 生徒指導体制については教職員の共通理解が出来ていると思うが、一人で抱え込まずに学校全体で指導に取り組む意識の向上は必要だと感じる。
- 日々のスクーリングや行事を通して、生徒の社会性や公共心、規範意識を高める声掛けや関わりができていると感じる。生徒指導上の問題が発生した場合には、教職員内で共有し、共通理解のもと対応に当たることができている。
- 日々のスクーリングの中で場面に応じた生徒の指導ができている。

【重点項目】 健全な心身の育成

【重点目標】

- ・心のケアを通して学校生活を援助する体制作り
- ・教育相談体制の充実
- ・校外学習や宿泊学習を通して心身の充実や道德教育の充実
- ・ボランティア活動を通しての奉仕精神の育成

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

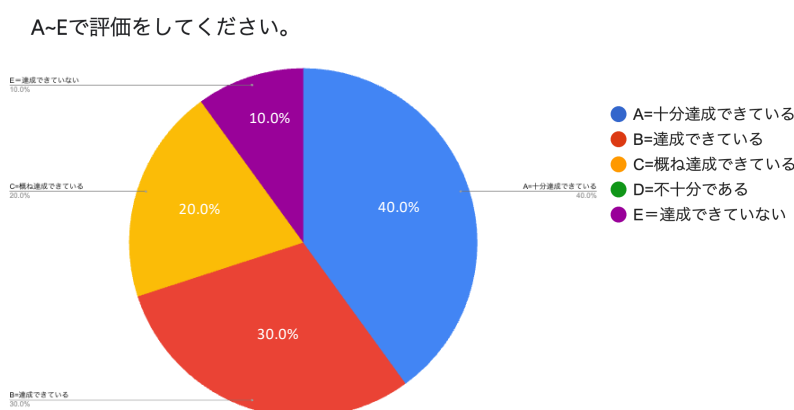
- 日帰りの校外学習は勿論、宿泊を伴う校外学習も定着しつつあり、今年度もこれを実施したいと考える。
- 生徒の中には受験へのストレスを抱える者、家庭環境で悩んでいる者、精神的な問題で入退院を繰り返す者などがいたが、それぞれの問題に対して真摯に向き合い、時には公的機関との連携をとって対応できた。また、各種校外活動の実施において、社会性や互いに助け合う共生、多様性の受け入れを、参加生徒は学んだのではないかとと思う。
次年度の課題として、発達障がいや起立性調節障害などを持つ生徒に対して、より社会性や自ら抱えている問題に対して、どのように効果的なアプローチ方法があるかを教員自らで学び実践するステージになるのではないかと考える。
- 校外学習等、生徒同士が触れ合える機会は設けられている。
- 生徒に対してこまめな声掛けを行い、安心して学校生活を送ることができるようにしてきた。今後の課題としては、スクールカウンセラーを利用するなどの心のケアの体制の充実を図る必要がある。

- 心身のケアは十分できていたと考える。ボランティアの機会の拡充が課題である。
- 特別活動の商店街のごみ拾いでボランティアに参加するという機会を設け、奉仕精神の育成ができています。
- 教育相談体制の充実に関しては、カウンセラー等の訪問などを定期的に行う必要があると思う。
- 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、必要に応じて個別面談や保護者面談を実施することができている。発達障がいの子供や家庭でのトラブルが見られる生徒に関しては、適宜外部機関との連携を行い、適切に対応を行う必要がある。
- 他の先生の生徒指導を見て学ぶことが多かった。

【重点項目】 保護者及び家庭との連携

【重点目標】

- ・ 不登校、転編入生など多様な生徒への指導
- ・ 生徒に関する諸問題の解決を図るための家庭との連携強化



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- クラブ顧問を通して情報を得ることが出来、それを参考に指導や、家庭との連携を密にできた。
- LINEや電話や対面等で家庭との連携を図れていたと考える。次年度はより強化していく必要がある。
- 定期的に懇談の機会を設けて連携をすることができている。

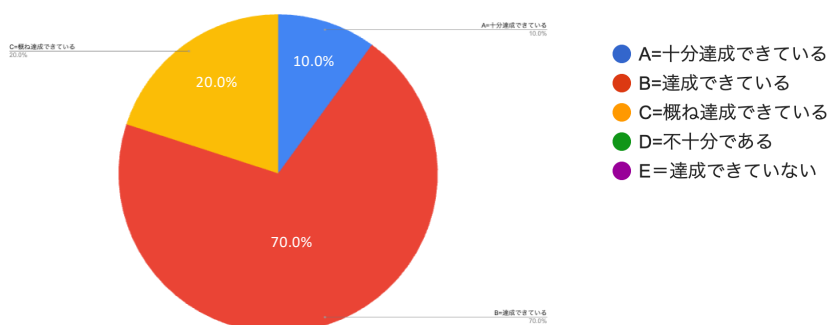
- 今年度、不登校という生徒はいなかったが、学習があまり進んでいない者や、登校頻度が少ない者に関しては、家庭に現時点の状態を知らせて、学校・家庭共に生徒の登校サポートするという体制を作ることができた。特に精神的な問題を抱えている生徒に関しては、特別にスクーリングを計画し、保護者・生徒にヒアリングを行いながら、現時点で学校側で出来ること、家庭側で出来ることの擦り合わせを行いながら、無事に卒業に影響がない程度での単位修得をすることができた。次年度も今年度と変わらないサポート体制をとると共に、より家庭や学校での状況を共有できるような関係を築いていければと考える。
- LINEや学校通信、個別面談等を通して、保護者とのコミュニケーションを円滑に行い、家庭との連携を図ることが出来ている。
- 年度途中で多くの転編入生が入学しており、それぞれの状況に応じた対応や指導を行ってきた。今後も個々の状況に応じた対応、指導をしていくことが課題である。
- それぞれの状況を把握し、情報共有の上生徒の指導を行っていた。
- 保護者や生徒本人への電話連絡など、定期的に行うことができています。
- 登校が少ない生徒に関しては、必要に応じて適切な電話連絡ができています。

【重点項目】 郊外活動への積極的な参加

【重点目標】

- ・ 自然や地域との触れ合いを図るための企画内容の検討
- ・ 特別教育活動への自主的参加奨励
- ・ ボランティア活動への積極的な参加奨励

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 昨年度の倍以上の校外活動を企画運営できた。生徒の特性に応じて、室内でのレクリエーションから、一日・半日で楽しめる校外活動、また宿泊を伴うものなど、生徒の成長段階に応じて様々な課外活動を実施できた。生徒から生徒へという参加促進も見受けられると共に、教職員も生徒とふれあい、理解する、貴重な時間として楽しみ学ぶことができたと思う。
次年度も昨年度と同様、校外活動を実施すると共に、より社会性を身につけ、知的好奇心を持てるよう意識できればと考えている。
- 校外学習スクーリング参加する生徒が年々増えており、更に内容をブラッシュアップして生徒が飽きないようにしたい。
- 特別活動への参加の促しはよくできていたと考える。ボランティア活動の機会充実が課題である。
- 校外活動の内容を見直し、新たに多種多様な企画を挙げ、実行に移すことができた。生徒への参加呼びかけも積極的に行い、例年以上に多くの生徒が活動に参加した。
- 機会を設けることは出来ているが、参加人数が増えるように工夫していく必要がある。
- 特別活動の商店街のごみ拾いでボランティアに参加するという機会を設け、奉仕精神の育成ができている。
- 生徒が参加したくなるような校外活動の企画を行う必要がある。
- 校外学習やボランティア活動の内容を工夫し充実させ、豊かな学校生活を送ることができるようにしてきた。活動の際には、生徒に声掛けを行い、積極的な参加を促した。
- さまざまな体験活動を計画することはできているので、自主的参加の部分を声かけの方法など考えて、生徒が積極的に参加できるようにしていきたい。

【評価項目】教務

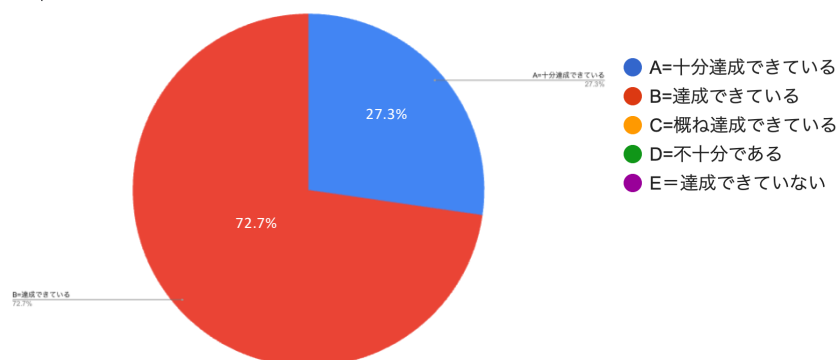
【具体的目標】

- ・生徒一人ひとりが各々の目標を達成できるよう、学校の運営に取り組む。
- ・基礎学力を定着させ、単位 修得に向けての学習の支援 を図る。

【具体的方策】

- ・教科の年間指導計画を作成し、教科教員間の指導の連携と充実を図る。
- ・「学習の手引き」の構成等を検討し、正確で分かり易い内容にする。
- ・スクーリングや校外学習を含む年間指導計画を作成し、生徒が積極的に参加できるようにする。
- ・レポート・スクーリングの状況を定期的に報告し、無理なく学習できる環境を整える。
- ・テストに向けた勉強の支援を行う。
- ・生徒の能力・進路に応じた科目が履修できるような履修科目の設定を考える。
- ・支援システムの効率的な処理ができるようシステムの構築を図る。
- ・家庭との定期的な連絡を通して、生徒の学習状況の把握に努める。
- ・教科担当によるレポートの添削を充実させ、生徒の教科内容の理解を図る。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 年度を通じたスクーリング・行事予定表の作成と配付を行ったことで、生徒・保護者・教職員共に見通しを持って学習やサポートを行うことができるようになった。生徒個人の学習進捗状況に関しても、随時家庭への共有を行い、保護者との連携の下、単位修得をサポートすることができている。

- 今年度から年間行事予定表を作成し、生徒・保護者に年度初めに配布したことによって、スクーリングや校外活動、試験期間、単位認定締切などが把握でき、生徒自身も計画を立てて単位修得にあたることができた。スクーリングとは別に、テストやレポート作成にむけた支援として、レポート指導時間を新たに設けた。また家庭とも学校通信やLINEを通じて状況を報告し、家庭からも十分サポートしてもらえる体制を整えることができた。次年度は、リアルタイムでの学習状況の把握ができるようITを活用したシステム構築を図り、保護者・生徒に、より便利に活用できる内容を試みるよう計画している。
- スクーリングを頻繁に行っており、スクーリング時数を超えても登校させ、少しでも理解できるよう指導できた。
- 生徒の状況・レベルに応じて個別対応することができた。次年度は苦手科目のテスト対策など、もう少し力を入れるべきだと考える。
- 定期的に学習進度を連絡して、計画的に学習できる状況は作れている。
- レポートやスクーリングの進捗状況を把握し、適切な声掛けをしていた。
- 生徒の学習状況を定期的に家庭に報告し、状況が芳しくない生徒には提出や出席を促すことができた。また、レポート添削のやり方を工夫し、生徒の教科内容の理解を図った。
- レポート、スクーリング、テストの学習支援は個別に対応しながらできていると感じる。

【評価項目】 進路

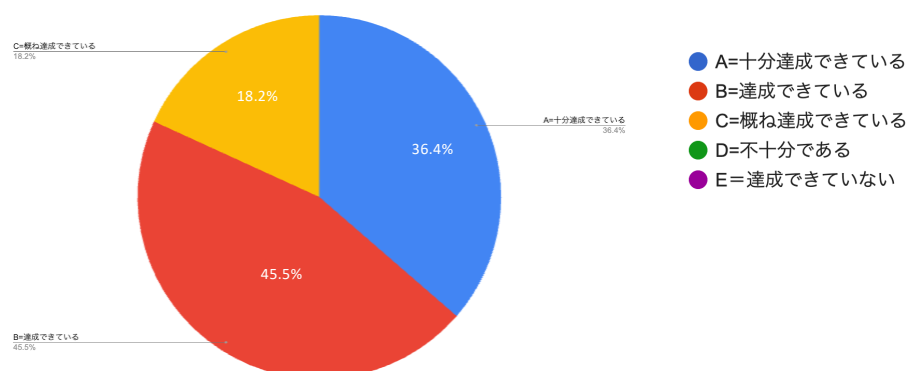
【具体的目標】

- ・ 生徒の進路実現のため、個に応じた学習計画を立て、前向きな姿勢で学習に取り組めるようにする。
- ・ 進路における情報収集を図る。

【具体的方策】

- ・ 自分の興味・関心に気付かせ、それを踏まえて進路の方向性を考えていくようにする。
- ・ 保護者との連携を深め、生徒の進路に関して三者が共有できる環境を整える。
- ・ 進路行事を提供し、自己の進路を考える機会を与える。
- ・ 学年に応じて段階的な進路指導の徹底を図る。
- ・ 個々の生徒の進路相談を充実させるため、進路関係の情報収集、提供に努める。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 生徒のみならず、保護者と連携し、具体的な志望校の決定から試験まで十分なフォローができた。高校卒業後の具体的な進路先を見つけれない生徒に関しては、綿密な面談を重ね、生徒個人の特長や興味を引き出しながら、相応しい学校を提示できた。次年度は、進学関連事業に携わる業者を使用しながらの進路ガイダンスを行ったり、また具体的な志望校の担当者に直接相談できる機会を作ったりなど、昨年度にプラスしたサービスを構築していく予定になっている。
- 進路指導担当を置き、業者主催の外部進路ガイダンス参加や、来校してもらっての進路ガイダンスを開催した。今年度は、大学・短大・専門学校見学や、会社訪問にも積極的に取り組む。
- 3年生は進路指導の時間があるが、1.2年生においても進路について考える時間を設けたい。
- 生徒本人にとって適切な進路指導を行うことが出来るよう、日頃のコミュニケーションを大切に、教職員で情報を共有しながら生徒理解に努めている。三者面談を適宜実施するなど、保護者との連携をさらに深めていく必要がある。
- 進路実現に向けた情報提供、個別の相談が出来ている。

- 適学適職検査を活用したり、総合的な探究の時間で進路について考える時間をつくったりするなど、自分の進路に対して向き合う機会を設けている。また、個別に面談を行い進路指導を行っている。
- 進路についての相談に対応するため、進学も就職も情報を共有して対応することができていると思う。自己の進路を考える機会の充実はまだまだできることがあるのではないかなと思う。

【評価項目】生活指導

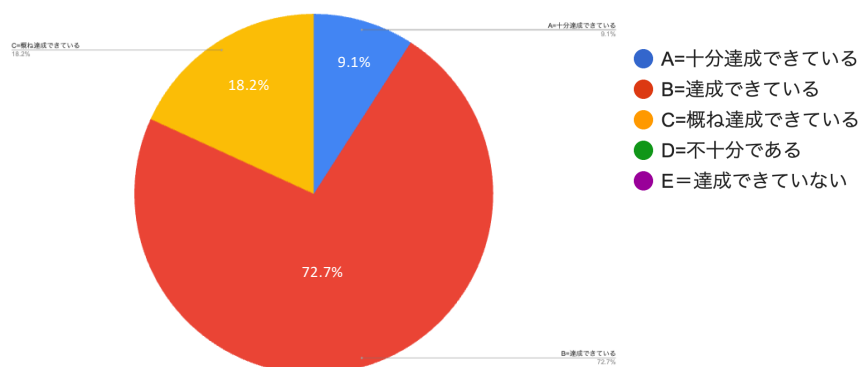
【具体的目標】

- ・学習する環境を整える。
- ・公共マナーの向上と社会的規範の遵守を図る。
- ・思いやりのある心の育成を図る。

【具体的方策】

- ・場をわきまえた行動がとれるように個々への指導を深めると同時に、自分の行動に責任が持てるような人間形成を目指す。
- ・スクーリング、講演、面談などを通して薬物の危険性、有害情報の提供、交通ルールや喫煙マナーなどを指導していく。
- ・人の心の痛みが分かり、思いやりを持った行動がとれるようになる。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 生徒指導は十分にできていた。

- ほぼすべての生徒が、他を気遣い、より快適な環境で学習できるよう意識して行動していた。また多様性を受け入れ、共生していくことが、様々な校外学習や日々のスクーリングなどで自然と培われていたように思う。次年度の課題として、マナーを守れなかったり、社会的規範の順守が難しい生徒に対しての指導方針や方法を検討していく必要がある。
- TPOに応じた行動ができるように指導・助言が出来ている。
- 講習会や校外学習で外部の施設や公共の場で活動をすることで、一般的なルールやマナーを遵守することを学ばせる機会を設けてきた。次年度以降もモラル研修や校外学習等を通じて学ばせていきたい。
- 校外でも落ち着いた行動ができる生徒が増えていると感じる。
- 団体行動の中で自分の取るべき対応など、自らに気付かせることができたと考える。次年度は、より力を入れていくことが重要である。
- 特に校外学習時において、教科や内容とは関係なく、生徒に向けて都度都度話をしたり、アドバイスをすることが出来た。今年度もそのような活動を通して行っていきたい。

【評価項目】 いじめ対策

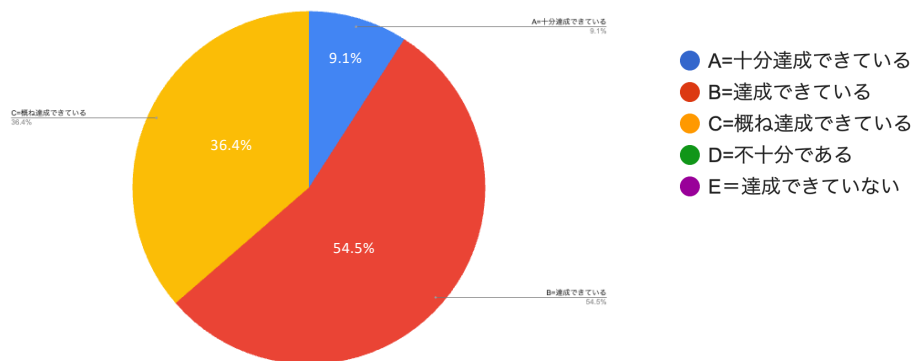
【具体的目標】

- ・ いじめ対策防止基本方針の策定を行い、学校の基本方針を明確にする。
- ・ 教職員間の情報交換を密にし、いじめを未然に防ぐ環境づくりに努める。
- ・ ネットにおける生徒の動向を把握し、情報モラルの指導を行う。
- ・ 外部機関との連携を図る体制づくり

【具体的方策】

- ・ 生徒同士が生き生きと、お互いの良さを認める雰囲気作りに努める。
- ・ 生徒との信頼関係を構築し、生徒の心に寄り添った対応をする。
- ・ 教職員の情報交換を密にし、生徒の理解に努める。
- ・ インターネット等による書き込みを含んだ「いじめ」を未然に防ぐ対応をする。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- いじめに関わるようなことはなかったと思われる。
- 教職員の情報交換を密にし、生徒理解に努めることができた。また、スクーリングや行事においては、生徒同士が安心して前向きに関わり合うことができるよう、教職員からの声掛けや関わり方を工夫した。今後、情報モラルの指導の機会を作る必要がある。
- 生徒の様子を教員間で情報交換出来ている。
- 教職員間の情報共有はしっかりできていると思う。
- 毎日の朝の打ち合わせ時に生徒の件を共有しているが、いじめに関してはない。今後もこのような取り組みをして未然に防ぐようにしたい。
- 今年度は、いじめに対する事案は起こっていない。次年度は、「もしいじめがあったら」ということも視野に入れて、その対策と生徒指導の方針、方法を検討しなければいけない。
- 登校してきた際には積極的に挨拶や声掛けを行い、良い雰囲気づくりをしている。また、生徒観察や教職員間の情報交換をこまめに行い、生徒の理解に努めている。SNS等の見えない部分にも気を配り、「いじめ」を未然に防ぐ対応をしていくことが今後の課題である。
- 目に余る行動や言動には注意し、言動を改めさせることができた。今後はネット内で起こる可能性がある問題にももう少し言及し、理解を深めることが重要であると考えます。

【評価項目】 安全健康管理

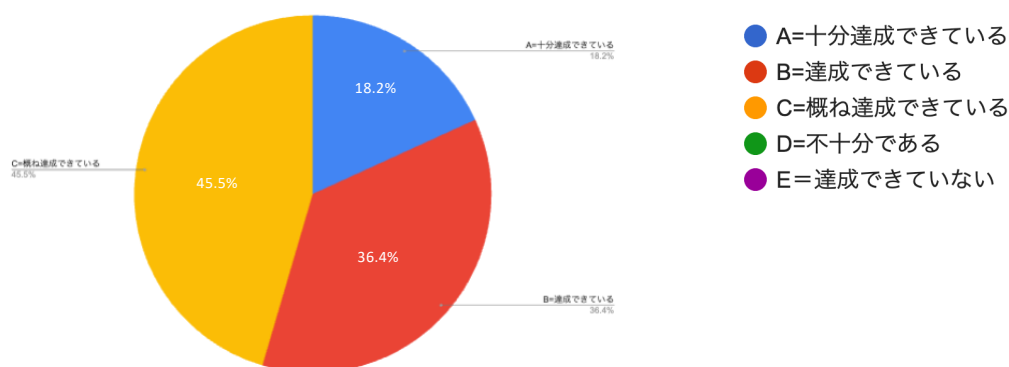
【具体的目標】

- ・ 心身の健康と自己管理能力の育成を図る。
- ・ 教育相談の有効活用を図り生徒の悩みに対応できる体制作りを行う

【具体的方策】

- ・ 生徒の健康診断を実施し、個々の健康維持・安全衛生面について配慮していくことで、生徒が良好な学校生活が送れるように努める。
- ・ 基本的生活習慣の確立を目指し、自己管理能力を高める。
- ・ 不登校傾向にある生徒に対しては、家庭訪問を行いながら家庭との連携を図り、生徒が学校生活が送れるよう信頼関係の構築に努める。
- ・ 不審者や緊急事態への対応の機能の充実を図る。
- ・ 地域の関連機関との連携を深め、生徒理解に努めることで、生徒を取り巻く環境の改善を図る。
- ・ 生徒の健全育成を図るため、社会のルールを守るよう指導する。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 特に問題はなかった。
- 家庭や公の支援センター、児童相談所などと蜜に連絡をとり、情報交換が出来ていた。今後も続けていきたい。

- スクリーニングやレポート指導、各種イベント等の日程を充実させた結果、生徒の登校日数が増加し、基本的な生活習慣の確立に繋がったと感じる。また、地域の関連機関と連携し、生徒を取り巻く環境の改善に努めた。
- 家庭訪問まではできていなかった。次年度の課題とする。
- 個々との面談の機会を更に充実させる
- 地域の関連機関との連携を強化していきたい。
- 案内・連絡は出来ている。
- 健康管理については、健康診断受診促進をはじめ、各種校外活動においても、生徒の変化を見ながら、随時対応できたと思う。次年度の課題として、不審者や緊急事態への対応の機能の充実が求められる。そういった生徒が危険にさらされる可能性もあるため、綿密な計画と対策を考えなければならない。
- 生徒に健康診断を受けさせるなど健康維持に配慮した環境づくりを行っている。通信制という特殊な環境なため、生活習慣が崩れる生徒もいるが、定期的にスクリーニングを含めた登校を促し、基本的な生活習慣の確立を図っている。

【評価項目】 生徒募集

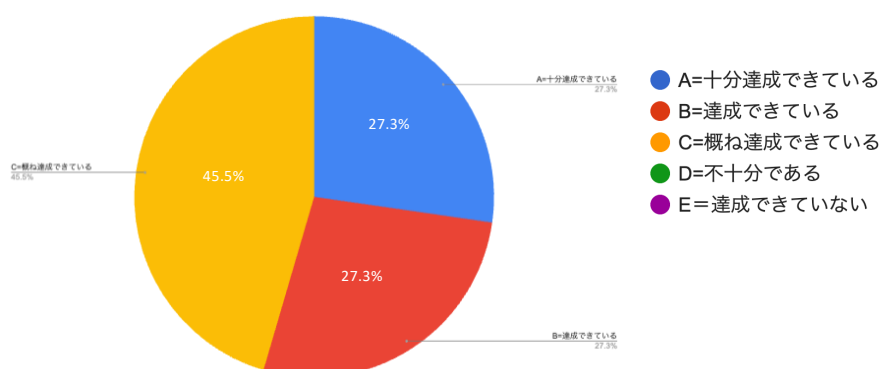
【具体的目標】

- ・ 生徒募集のための広報に努める。
- ・ 地域との連携を深めながら
- ・ 本校の教育目標を理解してもらう。

【具体的方策】

- ・ 学校案内パンフレット、ホームページの内容を工夫・充実させる。
- ・ 地域・他校との連携を深め、生徒募集の効果的な広報に工夫・努力する。また、関係する学校・機関の訪問を積極的に行い、生徒の理解に努める。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 中学校訪問（最低年間4回）や外部相談会（年間4回）参加を積極的に行った。今年度もその予定である。
- 学校訪問をはじめ、学校案内パンフレットを中学校に郵送したりなどを行っている。また、通信制高校の相談会への参加や入試説明会を行い、興味のある生徒・保護者に丁寧な説明をして、本校を知ってもらおうと同時に来校を促進することができた。ホームページや各種SNSなどの更新も行事ごとに行い、外部への発信を意識している。
次年度の課題として、学校の概要を知ってもらっただけでなく、その魅力を理解してもらえるような工夫が必要に思えた。在校生や卒業生の声など、リアルな学校生活を見てもらえるように動くことができるかと考える。
- 広報物の作成や学校訪問、SNSの活用、合同相談会への出展など、校舎全体で生徒募集に向けた広報活動に努めた。今後、さらに充実した広報活動を行うためには、生徒募集に関するデータの分析や、より一層の情報収集が課題である。
- 校舎独自のチラシやSNSを活用して、もっと学校の魅力を伝えていく必要がある。
- 本校の教育目標を理解してもらうための工夫はできていると思う。
- 各中学校を訪問し、在校生・卒業生の様子を報告出来ている。
- パンフレット内容の改善や学校訪問等で生徒募集に力を入れることができていた。
- 近年、通信制高校への注目が高まっており、本校に対する問い合わせ・資料請求も多くきている。今後も、地道な学校訪問や相談者対応の充実を図るなどの広報活動を行っていくことが課題である。

【評価項目】 教科

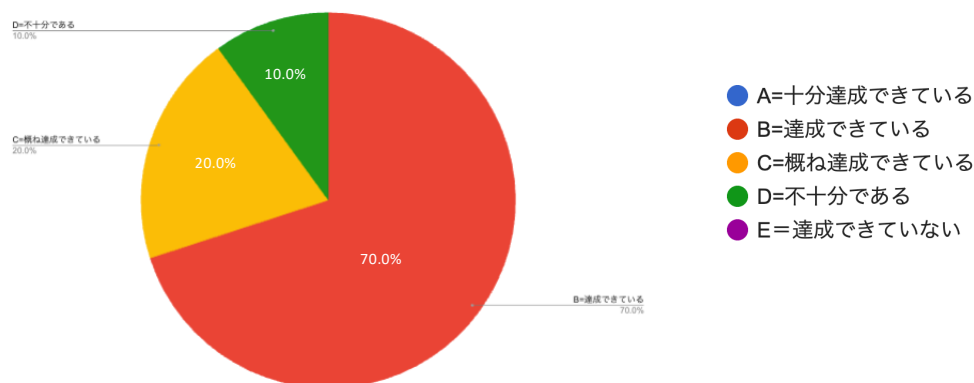
【具体的目標】

- ・ 個々の生徒の個性や能力に応じた教科指導の実践
- ・ 教科の特性を生かした指導
- ・ 担当教科との連携による生徒の指導と把握

【具体的方策】

- ・ 指導内容を振り返り、次のスクーリングに生かす。
- ・ 基礎学力の定着をはかり、生徒ができることの喜びを感じさせる。
- ・ 生徒一人一人の能力・実態に合わせた教材の提供を行う。
- ・ 基本的生活習慣を身に付けさせ、計画的に学習させる。
- ・ レポート指導や添削で生徒への理解をうながす。
- ・ 生徒の個性や能力に応じた教科指導の実践を図り、進路の実現を図る。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 一斉授業、個別授業と、教科の特性や生徒個々の特性にあった方法で、年間を通してしっかりと行う事が出来た。今年度も続けていく。
- 生徒一人一人の能力にあわせて学習の進度は異なるものの、スクーリングまたはスクーリングとは別でもレポート指導を行い、スムーズな単位修得を目指すことができた。

次年度の課題としては、レポートを完成させるという目的ではなく、レポートの内容を踏まえて基礎学力を定着させるということを目指とするための方法を検討しなければいけないと考える。

- 一人でレポートを進めることが難しい生徒には、一緒に考えながらレポートを進めていた。今後も続けていきたい。
- 生徒一人ひとりの能力、実態に合わせた教材の提供はできていると思う。
- 個別対応をしながら学力定着を促している。
- レポートの添削や個別指導の内容を充実させることで、個々の生徒に応じた教科指導を行っている。
- レポート指導や添削を丁寧に行い、生徒への理解を促すことができている。一方で、教科の特性を活かした指導や、生徒一人一人の実態に応じた教材の提供については、今後さらに工夫や改善の余地があると感じる。
- スクーリングの振り返り時間は不十分であったため、次年度の課題である。

【評価項目】1年生

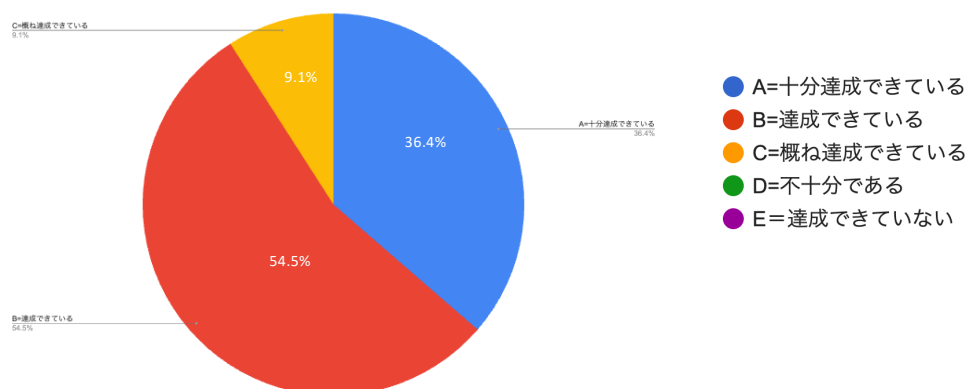
【具体的目標】

- ・ 基本的生活習慣の確立と学習活動の定着化
- ・ 学習環境作りの推進
- ・ 多様な生徒への配慮

【具体的方策】

- ・ 自己の進路目標を設定し、自分に向き合う姿勢を育成する。その中で自信を持たせるような環境作りを目指す。
- ・ 通信制のシステムの中で、個別指導をきめ細かく行う。
- ・ 場をわきまえた行動がとれるような学習の環境作りを施す。
- ・ 体験学習や学校行事への積極的な参加を促す。
- ・ 生徒の様々な状況を把握し、各生徒に適切に対処できるように心がける。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 1年生においては、まずは習慣づけをするために、4月5月は登校させ、出来る、出来た、という自信を持たせることが出来、結果的には殆どの生徒が単位を難なく修得できた。今年度もすでにこの方法で実施している。
- 入学ガイダンスや日々の声掛けによって、通信制のシステムというのを理解できている状態にある。各種校外学習への参加率も高く、「学校生活を楽しむ」ということを実践できている学年を模範として、自身もそのようにありたいと考える生徒がほとんどであった結果のように思える。
次年度は2年生として、初めて後輩を迎え、どのようにサポートできるかということが注目される。自分たちが先輩の姿から学んだように、1年生にもスムーズな学校生活が送れるように導いていくためのコミュニケーション能力や社会性の更なる育成が問われる。
- オリエンテーションや個別で詳しく説明することで不安感を取り除けるようにしている。
- 通信制のシステムを理解し、登校してきたタイミングで何かしら自信を持てる環境づくりはできていると思う。体験学習や学校行事への積極的な参加を促す工夫は必要。
- 学校に早く慣れるように声かけ等を行い、安心して登校できる環境づくりを進めている。
- 通信制という、全日制とは違った環境での基本的な生活習慣の確立や学習の仕方を指導・育成していくことができている。
- 三者面談や新入生オリエンテーション、新入生歓迎会などのイベントを通して、新入生が安心して登校できる環境づくりに努めた。今後は、特に登校が不安定な生徒や支援を要する生徒へ個別対応を充実させるとともに、教職員間での情報共有をより一層図っていくことが課題である。

- 個々の生徒の現状や性格に応じて個別に指導することができた。次年度も続けていくべきである。

【評価項目】 2年生

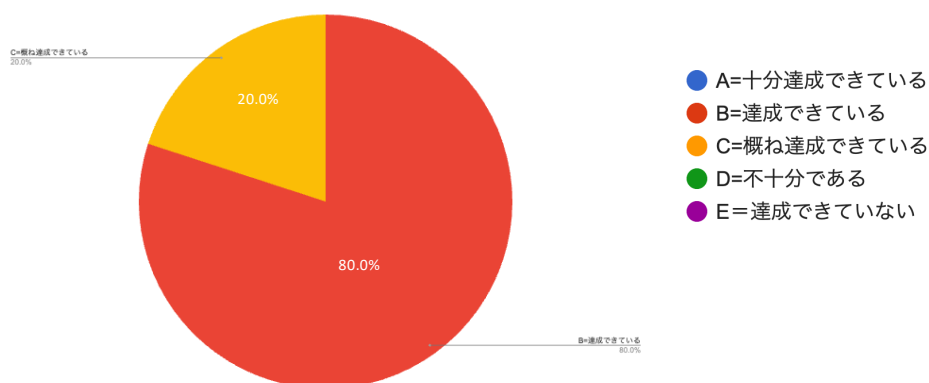
【具体的目標】

- ・ 学習の習慣化の定着による学力の向上
- ・ 進路意識の向上を目指す。
- ・ 学校行事への積極的参加

【具体的方策】

- ・ 個別指導を通して生徒の自覚を促し、スクーリング・出席率・レポートの提出率の向上を目指す、学力の向上を図る。
- ・ 悩みを抱えている生徒の情報把握・生徒理解に努め、適切な対応に心がける。
- ・ 進路の情報収集に努め、進路目標を持たせる。
- ・ 学校行事への参加を呼びかけ、友人との交流を図る。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 一番中だるみする時期ではあるので、スクーリングやレポートを常に意識させるようにし、達成出来た。今年もこの方法で続けていく。
- 学校に慣れてきたところではあるが、気が緩まないよう指導していく必要がある。
- スクーリング・レポートなどできていない生徒には適宜声掛けをしている。

- 2年生においては、活発な3年生の陰に隠れるような感じの雰囲気が見受けられた。通信制のシステムを理解しているため、できるだけ最小限の活動で押さえたいという生徒が多く見受けられたが、各種校外活動を展開していく中で、徐々に参加率もあがっており、今までは個人・個人であった部分に横のつながりができて、連帯感のある学年に後半はなってきたように思う。

次年度は3年生として進路決定がまっており、自分が何にむいているか、何をしたいのかということが見えてない生徒も見受けられるので、面談を随時行い、生徒・保護者とコミュニケーションを取りながら、自身の進路を決めていくことが必要となる。

- 進路について悩みを抱えている生徒の情報把握の徹底は必要だと感じる。
- 学習進度表を通して、計画的な登校・学習ができるように指導出来ている。
- 近年、早い時期から自身の進路に興味を持つ生徒が多いため、オープンキャンパスへの参加を促すなどの進路指導も行っている。今後の課題としては、気の緩む時期でもあるのでそこに注意し生活指導・学習指導を行っていくことがあげられる。
- 生徒とのコミュニケーションや保護者連携を通じて、スクーリングや学校行事への出席率向上を目指した。次年度は、特別な支援が必要な生徒に対して、個々の実態に応じた関わり方を工夫することが課題である。
- 日々の声かけや連絡を行うことで、生徒の学習面での進度をサポートすることができた。

【評価項目】 3年生

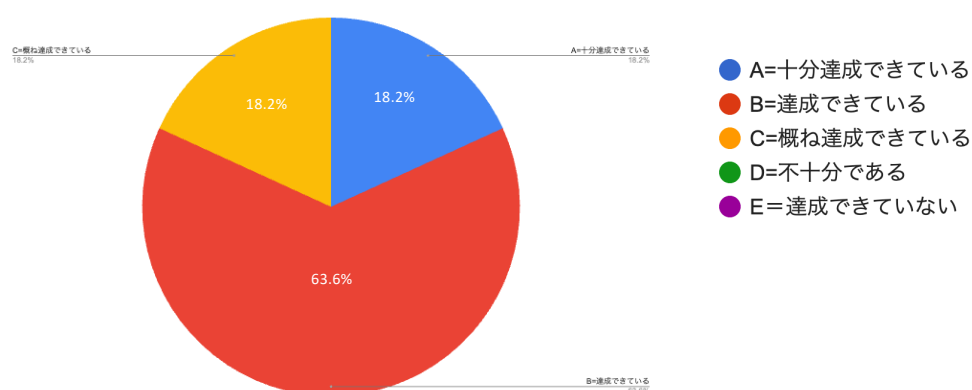
【具体的目標】

- ・ 単位取得の徹底と卒業への意識づけ
- ・ 進路希望の実現
- ・ スクーリングや校外学習への積極的な参加による学校生活における充実感の向上
- ・ 学習意欲の持続・学力の向上
- ・ 進路指導の充実

【具体的方策】

- ・スクーリングや面談を通じて学習指導の徹底を図り、単位取得を促し、卒業への意欲を高める。そのためにも、生徒や家庭との連絡を密にとり、三者の思いを共有する。
- ・将来に向けての動機付けを行い、進路に対する意識を向上させる。
- ・経験から学ぶ体験学習をはじめとした学校行事への参加を呼びかけ、地域と学校との一体感を味わわせる環境づくりに努める。
- ・個別面談あるいは個人学習状況表の確認などで、生徒のレポート提出やスクーリングの参加状況を把握し、生徒の卒業を確実に行う。
- ・常勤・非常勤教員と連携し、生徒一人ひとりに応じた適切な学習・進路指導に努める。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 進路上級学校への進路指導（就職希望者は0）体制を進路指導担当教諭より常に発信してもらい、受験や卒業に向けての意識付けを定着することが出来た。浪人した生徒以外は、全て希望する進路に向けて進むことが出来た。今年度も上級学校進学や就職に向けて、まずは教員からそのような雰囲気づくりをしていく。
- 3年生は学校の模範学年であると同時に、各種校外活動にも単位や特別活動時数など関係なく参加し、知的好奇心の強い学年であった。そのため進路においても、各自が自分のニーズにあった志望校を調べ、面談でのデータをもとに受験校を決定し、スムーズな進路決定を行うことができた。また、他学年の生徒に対しても気遣いと思いやりを忘れない行動をとり、学校生活を楽しむことを教えてくれた。
- 卒業に向けて早めの課題提出やスクーリングへの出席を促すことができていた。

- 進路選択・実現に向けて懇談等を行いながら指導出来ている。
- 最終学年としての学習指導や、進路が未定の生徒にはオープンキャンパスへの参加や進路冊子の閲覧を促すなどの進路指導を行っている。今後の課題としては、卒業し社会人になることを意識させ、生活指導・学習指導を行っていくことがあげられる。
- 生徒の学習状況を適切に把握し、確実に単位修得へと繋げることができた。また、三者面談や個別の進路相談、出願のサポートなどを通して進路指導を充実させ、希望する進路の実現に結び付けることができた。
- 生徒の進捗状況を家庭と共有し、卒業・進級を余裕をもって迎えることができた。次年度も同様に続けるべきである。

【評価項目】 事務関係

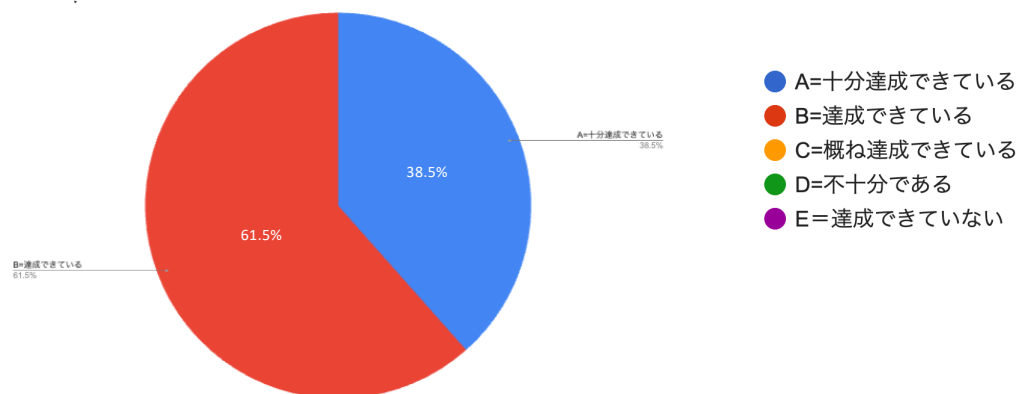
【具体的目標】

- ・ 生徒、保護者からの依頼文書等の対応を適切に行う。
- ・ 関係機関との信頼関係の構築を図る。
- ・ 学校業務が円滑に図れるよう心を配るようにする。

【具体的方策】

- ・ 学割や定期、願い届出等に対する処理を適切に行っていく。
- ・ 関係機関との信頼関係を築きながら、必要となる文書の作成や生徒・保護者への配布などを適切に行うようにする。
- ・ 学校業務を行う上での環境の整備に心がける。また、学校への問い合わせ等の外部との対応も的確に行うようにする。

A~Eで評価をしてください。



- 学校全体の評価と次年度への課題を記述してください

- 事務処理に関しては特に問題なくできている。
- 特に問題はなかった。
- 各種書類の申請手続きや生徒・保護者への文書送付などについて、担当者を中心に適切に対応できている。
- 必要な連絡は滞りなく対応できていたと考える。次年度も続けていくべきである。
- 適正に処理が出来ていた。特に奨学金関係などに関しては、今後も丁寧に、かつ密にアナウンスをしていく。
- 学校が対応できる範囲で迅速に対応している。
- 案内の配布等適切に行っている。
- 学割・証明書交付において、各学習センターでの対応ができておらず、本校に直接問い合わせが来るが多かったが、本校で丁寧な対応をすることで事務処理を行ってきた。
生徒数も増加しており、各部署の担当者がきちんと流れを把握し、迅速な対応が今後は求められるので、そこが課題である。
各部署の担当者がきちんと流れを把握し、迅速な対応が今後は求められるので、そこが課題である。
- 円滑に処理ができるように、デジタル化の推進をしていきたい

- 本校事務に関しては、年間を通して基本的に問題なく対応ができているが、就学支援金事務では、業務の属人化や制度の大幅な改正などが原因で、学習センターや保護者に対しての説明の中で多少混乱が生じるようなケースが見られた。

国や県からの情報をいかにわかりやすく学習センターや保護者に情報として提供できるかが今後の課題となってくるため、従来の作業工程や内容などを見直し、これまで以上にきめ細やかな対応を行っていききたい。